



FlexOperations
Software Suite

 SafetyPowerControl

リリースノート

Version 2.2.0

横河レンタ・リース株式会社

作成日: 2017年8月15日

© Copyright 2017 Yokogawa Rental & Lease Corporation

© Copyright 2017 横河レンタ・リース株式会社

本書は著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、及び翻訳することは、著作権法下で許可事項を除き、禁止されています。

横河レンタ・リース株式会社

◆ 新宿本社

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 1-23-7 新宿ファーストウエスト 4 階

TEL : 03-5908-1752 (代表)

◆ 武蔵野本社

〒180-0006

東京都武蔵野市中町 1-19-18 武蔵野センタービル 3 階

TEL : 0422-60-1111 (代表)

< < 目次 > >

1. 仕様	4
2. SafetyPowerControl v2.x	5
2-1. SafetyPowerControl v2.1.0 機能強化	5
2-2. SafetyPowerControl v2.2.0 機能強化	5
2-3. アップデートに関する留意事項.....	7
2-4. アップデート手順	7

1. 仕様

このリリースノートでは、FlexOperations Software Suite に含まれる、SafetyPowerControl v2.2.0 のリリースについて記載しています。

このドキュメントには SafetyPowerControl v2.2.0 に関する追加機能、アップデートについて記述しています。

製品をご使用になる前に、必ず本ドキュメントをお読みください。

インストール要件、設定方法については、別途「SafetyPowerControl ユーザーガイド」を参照してください。

2. SafetyPowerControl v2.x

本章では、SafetyPowerControl に関する機能強化、修正点、互換性、制限事項、対策などに関する情報を記載しています。

2-1. SafetyPowerControl v2.1.0 機能強化

SafetyPowerControl v2.1.0 の機能拡張は以下のとおりです。

MSA ストレージ製品の停止に対応

- HP MSA ストレージの停止に対応しました。

ノード登録の際にストレージ種別として「MSA」を選択することで MSA ストレージを登録可能です。
「ノード停止」「ノード開始確認」の処理を実行出来ます。

リモートコンソール制御に対応

- SSH 経由で操作可能な任意のノードに、一連のコンソール操作を登録することでリモート操作が可能になりました。

従来の「リモートコマンド実行」機能は、コマンド型インターフェースのコンソールに対するワンスルー型（1コマンドの実行で必ず処理結果が返される型）のコマンド実行と、そのコマンドの戻り値による成功・失敗判定のみの対応でしたが、本バージョンよりターミナルからのインタラクティブな操作を登録することで、メニュー型インターフェースや、コマンド実行で確認入力を伴うような場合の制御を可能となりました。

HP iLO3/4 制御に対応

- HP iLO 制御によるサーバの電源 ON/OFF 制御について、iLO3/4 バージョンに対応しました。

2-2. SafetyPowerControl v2.2.0 機能強化

SafetyPowerControl v2.2.0 の機能拡張は以下のとおりです。

FOP WindowsAgent の .NET framework バージョン拡張

Windows ノードを制御するために導入される FOP WindowsAgent が、.NET Framework4.x に対応しました。

これにより、Windows2008/2012/2016 OS において、別途 .NET Framework2.x/3.x を導入する必要はなくなりました。

HP iLO 電源状態待機機能の追加

- HP iLO 制御において、指定ノードの電源状態が ON ないし OFF になるまで待機する機能が追加され

ました。

HP iLO 電源状態待機機能の追加

- 制御項目の HP iLO 制御において、指定ノードの電源状態が ON ないし OFF になるまで待機する機能が追加されました。

ローカルスクリプト起動機能の拡張

- 制御項目のローカルスクリプト起動において、起動スクリプトとしてバッチファイル以外に WSH VB スクリプト及び PowerShell スクリプトを直接起動する機能が追加されました。
- 起動するスクリプトに、別途コマンドライン引数を与える機能が追加されました。

制御グループ編集機能の拡張・修正

- 制御グループ編集において、項目のインポート/エクスポートを行う機能が追加されました。
- 制御項目の VMware ESX ホスト停止において、仮想マシン個別設定の編集時に障害が発生する場合がある不具合が修正されました。

2-3. アップデートに関する留意事項

本バージョンの SafetyPowerControl は、従来の SafetyPowerControl v1.x からの設定引継ぎは出来ません。

アップデートインストールは標準インストーラ(fop_install.exe)を起動し、表示に従ってアップデートが行われますが、旧設定はすべて初期化され、削除されます。

アップデート完了後に、再度設定を行う必要がありますのでご注意ください。

また、本バージョンの SafetyPowerControl のライセンスコードは、従来の SafetyPowerControl v1.x とは体系が異なるため、アップデートの際はライセンスコードの再発行が必要となります。

ライセンスコード発行は SafetyPowerControl がインストールされているサーバのホスト名、ライセンスのシリアル番号をご用意の上、弊社サポートセンターにご連絡ください。

ライセンスコード発行手順

1. SafetyPowerControl がインストールされているサーバにログインし、コマンドプロンプトより [hostname] コマンドを実行します。
2. 出力された「hostname」コマンド出力結果と、ライセンスシリアル番号を弊社サポートセンターに連絡し、ライセンスコードの発行依頼を行ってください。

2-4. アップデート手順

SafetyPowerControl アップデート手順

1. SafetyPowerControl を終了します。
2. タスクマネージャのプロセスで、[fop_spc.exe]が存在しないことを確認します。
3. SafetyPowerControl がインストールされたフォルダの[SafetyPowerControl.conf]をバックアップします（旧環境の設定を確認する必要がある場合）。
4. [fop_install.exe]を実行し、SafetyPowerControl をインストールします。
制御対象サーバに Windows サーバが含まれる場合は FOP WindowsAgent も導入します。
5. SafetyPowerControl を起動します。（この際、ライセンス警告が表示されます）
6. SafetyPowerControl の[ファイル] [設定] [詳細設定]のライセンスコード欄に発行されたライセンスコードを入力します。
7. SafetyPowerControl を一度終了します。
8. SafetyPowerControl を起動し、ライセンス警告が表示されないことを確認します。
9. SafetyPowerControl の[ファイル] [設定]の各画面にて、設定を行います。
10. 正しく動作することを確認します。

環境再設定ガイド

本バージョンの SafetyPowerControl は、設定カスタマイズによって旧バージョンと同じ動作を構成することが可能です。環境の再構成に当たっては、以下方針に従い設定を実施します。

ストレージ設定

- ・ ストレージ設定は、ノード種別：ストレージの登録ノードとして登録します。
- ・ 「ストレージのシャットダウンは実行しない」チェックが有効な場合は、制御グループ設定の「ノード停止」項でストレージについてのチェックを外します。
- ・ 「ストレージ停止前処理の最大時間」が指定されている場合は、制御グループ設定の「ノード停止」項の前に「タイムアウト設定」を挿入し、最大時間を設定します。
- ・ 「ホスト停止後、ストレージ停止前の待機時間」が指定されている場合は、制御グループ設定の「ノード停止」項の前に「一定時間待機」を挿入し、待機時間を設定します。
- ・ ストレージが StoreVirtual VSA の場合は、制御グループに StoreVirtual VSA 環境に特化した設定が必要になります。詳細はユーザーズガイドの「3-4-3-2 StoreVirtual VSA 環境の設定について」をご参照下さい。

vCenter 設定

- ・ vCenter 設定は、ノード種別：vCenter サーバの登録ノードとして登録します。
- ・ 制御グループの「HA クラスタ停止」項にて、設定した vCenter サーバを指定します。

ホスト設定

- ・ 仮想ホスト設定に登録されている全ての ESX ホストは、ノード種別：ESX ホストサーバの登録ノードとして登録します。
- ・ 制御グループの「ESX ホスト/ゲスト停止」項にて、設定した ESX ホストを全てチェックします。
- ・ 「停止実行時の Ping 確認対象ホスト」が登録されている場合は、制御グループ設定の「ESX ホスト/ゲスト停止」項の後に「Ping 応答確認」を挿入し、対象アドレス群を登録します。判定条件は「全アドレスが無応答になるまで待機」にします。

ゲスト OS 設定

- ・ 仮想マシンの個別設定が行われている場合は、制御グループの「ESX ホスト/ゲスト停止」項にて、「停止順序」項に個別設定を全て登録します。

スクリプト設定

- ・ 停止前/停止後/開始前/開始後にスクリプトが設定されている場合は、制御グループの「停止制御」/「開始制御」の先頭ないし末尾に「ローカルコマンド実行」を挿入し、スクリプトを設定します。

以上